

**目的** 親子関係の諸課題を生活縮図的に、多面的に、動態的に探究する方法として、“日常生活にひらかれた”心理劇を取り上げ、その活用のしかたの可能性を探るとともに、実践例に即して、その方法論的な特性を具体的に明らかにしていく。またそのような心理劇の特性をいかした課題の考究を行う。今回は、親子の発達の變容に着目し、発達段階による人間関係構造の變容や個々の役割行動の變容が明らかになるような心理劇を開発する。心理劇の歴史・動向をふまえた上で、新たな活用法を探っていこうとするものである。

**方法** 1988～1992年度お茶大乳幼児集団研究会、児童集団研究会（大学と社会の交差領域において、親・子・研究者が集う実践研究会）の親グループにおいて行われた心理劇の中から、上記の目的に対応するものをいくつか取り上げ、新たな実践にいかせる状況演出のしかたを明らかにして技法化する。また実践例（心理劇の行演と参加者の役割体験）を分析して発達の變容に関する法則や問題点について考察する。

**結果および考察** 発達の變容を探究する心理劇の状況技法：A親子の発達段階の節目における人間関係構造の表演（子の誕生—七五三—入学—子の恋人の登場—孫を連れて子の里帰りなど、よりそう関係から相互媒介的な関係へ）、B発達の變容が顕れる親子の問題状況の心理劇（親と上の子と下の子の葛藤状況など、親の役割行動を変えて問題解決のヒントを探る）、C家庭の行事の心理劇（お正月など同じ行事の過ごし方の違いから親子関係の變容を把握する、自立していく過程など）、Dその他。日常生活の参加観察、アンケート、面接、討論など、他の方法と組み合わせると心理劇をより有効に活用できる。